

会議結果報告書

令和8年1月15日

会議の名称	第1回舞鶴市子ども・若者支援会議青少年健全育成部会	
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 附属機関 <input type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和7年12月18日(木) 13時30分~15時30分予定	
開催場所	大会議室(別館6階)	
出席者	別紙のとおり	
議題	【報告事項】 (1) 青少年健全育成部会委員の追加選任について 【協議事項】 (1) 令和7年度舞鶴市青少年善行表彰 被表彰者の選考について (2) 今後の青少年善行表彰のあり方について (3) 今後の青少年健全育成部会の方向性について (4) 子ども・若者の居場所づくり支援について	
公開の区分	<input type="checkbox"/> 公開	
	<input checked="" type="checkbox"/> 非公開	[理由]委員の推薦事務を適正に行うため
傍聴者数		
審議結果及び 主な意見等	・別紙「議事録」のとおり	
会議録の 作成様式	<input type="checkbox"/> 詳細 <input checked="" type="checkbox"/> 要約	
備考		
担当課	舞鶴市健康・こども部 こどもまんなか室 子育て応援課 TEL (0773)66-1008	

舞鶴市子ども・若者支援会議・青少年健全育成部会 委員名簿

(敬称略)

No	団 体 等	役職	摘要	職 名	氏 名	出 欠
1	舞鶴子ども育成支援協会		常任	会長	池内紀代子	出 席
2	舞鶴自治連・区長連協議会		常任	会長	福本 清	欠 席
3	舞鶴市小学校長会		常任	役員（倉梯小学校長）	四方 直人	出 席
4	舞鶴市中学校長会		常任	役員（青葉中学校長）	清水 良平	欠 席
5	京都府立東舞鶴高等学校		常任	副校長	麥田 幹茂	欠 席
6	舞鶴市P T A連絡協議会		常任	副会長	菅沼 真一	欠 席
7	社会福祉法人舞鶴市社会福祉協議会		常任	事務局長	仲川 真広	出 席
8	舞鶴市民生児童委員連盟		常任	児童部会長	西川 浩明	欠 席
9	公募委員		常任		原田 翔太	出 席
10	公募委員		常任		高田 智哉	出 席
11	京都府中丹広域振興局		臨時	地域連携・振興部長	武部 一郎	出 席
12	京都家庭裁判所舞鶴支部		臨時	主任家庭裁判所調査官	藤岡 佳子	欠 席
13	京都府舞鶴警察署		臨時	生活安全課長	田中 宏和	出 席
14	舞鶴地区保護司会		臨時	理事	辻 香	欠 席
15	舞鶴市少年補導委員連絡協議会		臨時	会長	三上 幸男	出 席
16	京都北都信用金庫東舞鶴中央支店		臨時	支店長代理	杉浦 佑季	出 席

子ども・若者支援会議 青少年健全育成部会 議事録

日時：令和7年12月18日（木）13：30～

場所：大会議室

出欠席：別紙名簿のとおり

【報告事項】

青少年健全育成部会委員の追加選任について

資料2について事務局より説明

【協議事項】

(1)副部会長の選任について

池内：副部会長に仲川委員を推薦

委員：全員承諾

仲川：承諾

(2)令和7年度舞鶴市青少年善行表彰 被表彰者の選考について

資料3について事務局より説明

池内：表彰だと思う委員は挙手

審査：全員挙手

池内：表彰対象者で決定とする

(3)今後の青少年善行表彰のあり方について

資料4について事務局より説明

武部：先程の表彰対象者については今年度の表彰とし、来年度から終了という理解でよいのか。

年1回善行表彰の審査をすると引き継いだら、この部会での表彰対象者の審査は終了するのか？

事務局：善行表彰の制度がなくなれば部会で表彰の審査をすることはなくなる。ただし、基金を活用した他の事業については引き続き審議をお世話になりたい。

田中：基金を使っただけの表彰はなくなるということであるが、若者の善行は埋もれることがあってはならない。舞鶴市として他の形で表彰される基準があるからなくすという方向性でよいのか。

事務局：善い行いについて表彰する形ではなく、善い活動を支援していく形へと転換していきたい。こども・若者に特化した表彰ではなく、環境保全や人命救助などすでにある他の表彰制度を紹介していく。

池内：これまで応援課が窓口となって募集や表彰をしていた案件について、部会の1つの仕事が終わりにしてよいかという提案であるが、青少年の善行があったときに代わりに市民に声をかけることもない、受け入れてくれるところもないのは寂しい。今後、そのようにならないようにどのようにするのか回答をいただきたい。

三上：この表彰を励みにボランティア活動を行っている中高生もいる。すべてをここで終わらせるのではなく、そういった声を拾える仕組みにしていきたい。

仲川：青少年の善行を表彰して良い効果を波及させるという目的は、役割を果たしたわけではない。ここに違和感を感じている。環境、人命救助や他の表彰制度を見ると、他の表彰でカバーできるという趣旨であるが、市長から直接表彰されるのはこの表彰制度であり、それが励みになっていると思う。役割を終えたのかについてはもう一度検討いただきたい。寄附当時に、寄附者の意志も伺いながら作られた制度だと思う。寄

附者として依存はないのであればよいと思うが、様々な観点で、みんなが納得できるように整理をしていただきたい。

池内：いろんな意見がでたが、特に今後若者の善行が埋もれることがないように、役割を果たしたという文言について事務局で再度、検討いただきたい。

(4)今後の青少年健全育成部会の方向性について

資料5について事務局より説明

審議事項① 意見なし

審議事項②

原田：「こども」「若者」「青少年」のことばの定義は？

事務局：こども家庭庁の方針もあり、こどもまんなか計画でも「こども・若者」で統一した。「青少年」は少女もある中で現代にふさわしくない。0～39歳をこども・若者と定義している。

原田：20歳までというわけでもなく39歳まで？

事務局：主には20歳までの支援。ただし、ひきこもり等も問題になる中でこども・若者を切れ目なく支援していく。

四方：こども・若者を対象とするが、名称としては「こども」でもよいのか。

「こども・若者未来づくり部会」に一票

高田：部会の立ち位置として「推進」するのか「支援」するのか。

「こども・若者未来づくり推進部会」長い？硬い？

仲川：こども・若者未来づくり部会

武部：親が「こども・若者支援会議」があるので「こども・若者」を入れると長い。

「未来づくり推進部会」だけでもよいかも。

原田：今後、資料4の居場所づくりをこの部会のメインでやるのであれば「居場所づくり部会」でも良いのでは？未来を作るよりは今を作りたい。今のこども・若者に何ができるかを検討したい。それを「居場所」に限定して良いのか？はあるが...

高田：未来と居場所づくり推進部会はどうか

池内：採決をとる

未来づくり推進部会 2人

居場所づくり部会 0人

未来と居場所づくり推進部会 6人

多数決により「未来と居場所づくり推進部会」に決定

(5)こども・若者の居場所づくり支援について

資料6について事務局より説明（報告事項に訂正）

その他の意見・質問

（武部）

5-2の改正案について善行表彰が残った場合として専決処分に善行表彰が残っているのか。

そこでは「善行表彰」の硬い文言が残るのか。部会の役割として居場所づくりとして4を加える、1～3は制度として生き残るのでそれも含め部会の新名称という理解でよいか。

（仲川）

資料6について

1の事業は創設、2、3の事業は引き続きという理解でよいか。

今年度の補助金の実績として10件あるが、その内訳と傾向は？こどものみか若者もあったのか。

（事務局）

今年度は基本はこども。若者を排除したわけではなく、こどもの申請が多かった。周知はしている。多くの居場所ができるのが理想。来年度はさらに周知・展開していきたい。

(池内)

カタラボの活動について知りたい

(高田)

かたラボができた経緯について。舞鶴出身であり、中筋小学校、城南中学校、日星高校で過ごしたが、舞鶴ってなんもないやんという思いがあった。名古屋に進学後、特に理由はないが、舞鶴いい街やなと感じた。

そんな中、コロナ禍で舞鶴に帰る機会が増えた。オンライン授業で平野屋のフラットプラスに出入りするような機会が増え、事業者や大人と話す事が増え、舞鶴の魅力は「人」であることに気づいた。学生のときに気づいていれば舞鶴のみかたや、今の感じ方も変わったのではないかと感じている。その頃から地域と学生をつなげる何かをしたい思いがあった。

地域おこし協力隊で原田さんとの出会いから今の場所が見つかり、活動が始まった。

高校生や中学生、地域の方と一緒にDIYして2024.3.31にオープン。スタッフ2名から始まり、現在6名で運営。8割は高校生でバス待ち、電車待ちの時間に集う場所となっている。探究学習の相談、学校の悩み相談で来てくれたり、商品開発とかいろんな活動をしている。1年半で利用者3500人ほど利用をいただいた。

(原田)

放課後の高校生16:00から19:30に運営。火曜日定休日。日星や西舞鶴高校の生徒が多い。大人が一人は常駐、広さは大会議室半分くらい。知らない生徒同士の出会いもある。喋ってもいい。宿題してもいい。ゲームしてもいい。ボードゲームもある。自由に過ごせる場所で月に2、3回はイベントを開催。大人と学生の交流を目的にしている。

(高田)

財源は20~30の会社からの寄附、50名ほどの個人の寄附。東京のNPOの補助金をいただいている。

どんな場所？と言われることもあり、地域の方の理解や定着はなかなか難しいと感じるが、こどもにとって第2、第3の家になればよいと思っている。

(原田)

先程もたくさん居場所が必要、とあったが、いろんな居場所があることが地域の人やこどもに届いているのか。ほんとに必要としている人に情報を届ける必要性を感じる。

こどもが見て自分で選択ができるような情報の届ける仕組みを考えたらいいなと思う。

(池内)

名称の由来は？

(高田)

学生の未来や夢を語ってほしい思いから「かた」

語るだけで終わるのではなく、研究をしてほしい「ラボ」

(田中)

公認があると警察も協力しやすい。簡単に言うと暴力団と無関係ですよとか。地域のこどもが集まる場所として公のマップになれば警察としても絡みやすい。イベント等があっても協力ができる。